3-3. 宮園地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

宮園地区は、益城町の中心である木山交差点の西側に位置しており、都市計画上は市街化区域に分類されています。地区内を幹線道路である県道熊本高森線が通っており、北側（道安寺）と南側の地区（本村、道上馬場）に分かれています。

周辺には、益城町役場（旧庁舎）や文化会館などの公共施設、医療・商業施設などが立地した生活利便性の高い地区で、地区内のほとんどが住宅地として利用されおり、静かな住環境が確保されています。

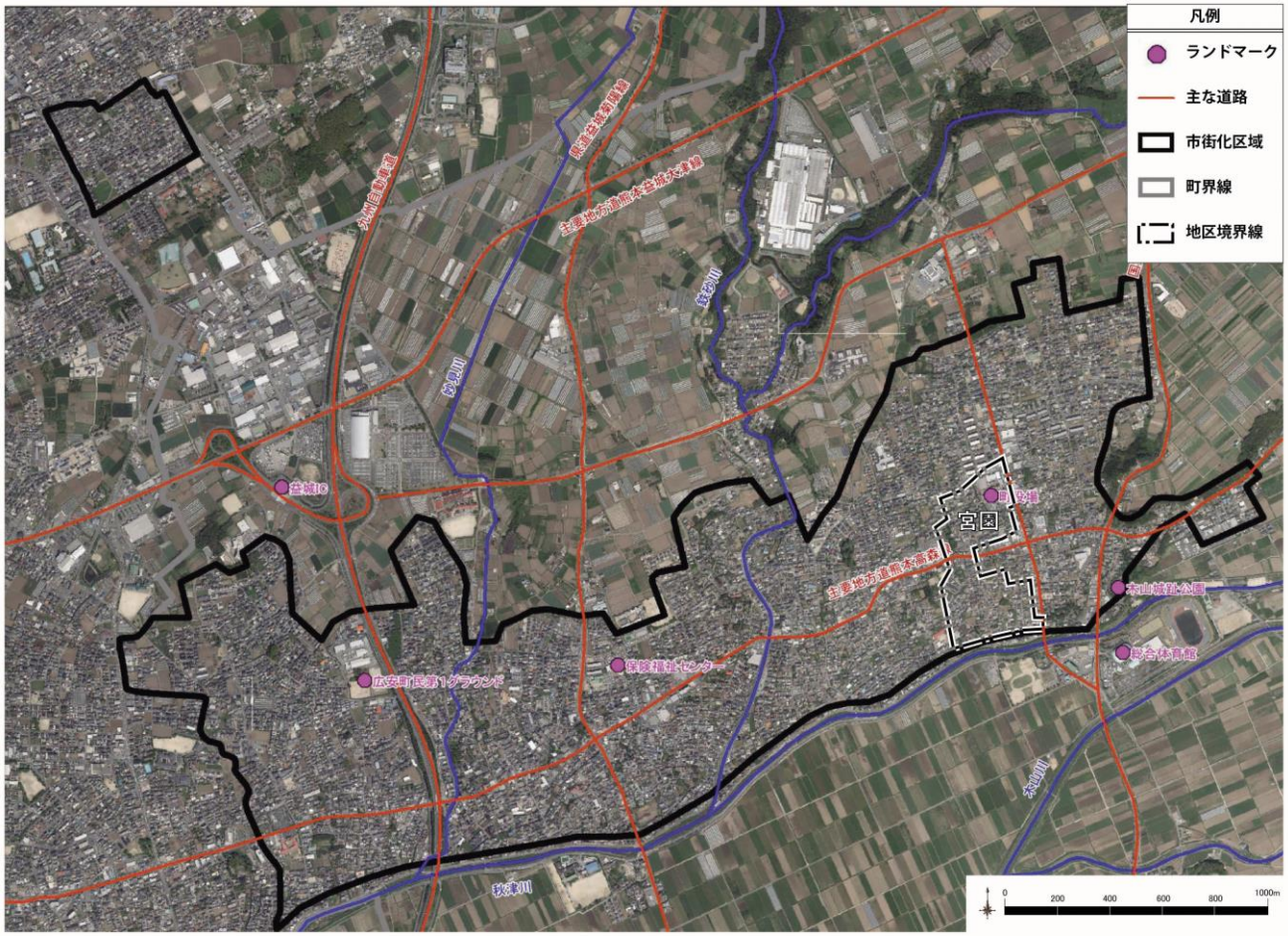

図　宮園地区

■人口

行政区別人口表（益城町役場ＨＰより）によると、熊本地震前の宮園地区の人口は、概ね 770 名前後で推移し、世帯数も約 300 世帯でした。平成 28 年熊本地震後の調査では、人口は 111 名の減少、世帯数は 31 世帯の減少となっており、熊本地震の影響によって約 15%の人口減少となっています。

表　宮園地区の人口

	男	女	計	世帯数
平成 27 年 3 月末	388	377	765	297
平成 28 年 3 月末	398	378	776	303
平成 29 年 3 月末	342	323	665	272

出典：益城町役場ＨＰ　行政区別人口表より

（２）被害状況

罹災証明における家屋の被害状況によると、全壊が 166 棟（63%）と最も高い割合になっています。また、罹災証明を受けた家屋のほぼ 100%が一部損壊以上の被害を受けており、益城町全体で比較しても、宮園地区が甚大な被害を受けていることがわかりました（平均全半壊率は約 55%）。

表　被災家屋数（罹災証明より）

	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	被害無し
宮園地区	166 棟（63%）	13 棟（5%）	44 棟（17%）	38 棟（15%）	1 棟（0%）
合計	262 棟				

出典：益城町役場　被災状況データより

（３）地区の課題

宮園地区の住民で座談会を開催し、これまで地区が抱えていた課題や地震により判明した課題について意見交換を行いました。そこでわかった宮園地区の主な課題は次のとおりです。

	熊本地震前	熊本地震時・地震後
ハード面	・道路が狭い ・行止り道路が多い ・公園緑地がない ・水路に不具合が生じている	・擁壁やブロック塀が倒壊して避難が困難になった ・道路が寸断され、救助が遅れた ・橋桁が傾いて通行できなかった ・避難する場所がなかった
ソフト面	・地域交流が少なくなった	・地域のつながりが無く、避難が大変だった

２．地区の基本方針

宮園地区では、アンケート調査や各種座談会を重ね、宮園地区住民の復興に対する想いに耳を傾けてきました。その結果を、復興まちづくり将来像としてここに示します。

地域のつながりで成り立つ、安全・安心なまち『宮園』

～私たちが復興将来像に込める想い～

- 地震などの災害に備え、しっかりした都市基盤を作り上げ、安全・安心に暮らせる宮園地区を作りあげる。
- これからは地域のつながりを一層強め、共に助け合い、絆をより深めていく。
- 宮園地区を再び大災害が襲ったとしても、しっかりした都市基盤と地域の絆で生命と財産を守り、宮園地区に住み続ける。

３．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

避難路については、熊本地震により通行止めが続いる町道道安寺線を避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように、拡幅整備します。また、行き止まりの解消を行うために避難路を新設整備します。

表　避難路の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
町道道安寺線	地区公共施設（避難路）	拡幅	240.0	6.0		195,000
町有道路	地区公共施設（避難路）	新設	85.0	6.0		49,000

宮園地区【Ａ：6m（町道道安寺線）、Ｂ：６ｍ】

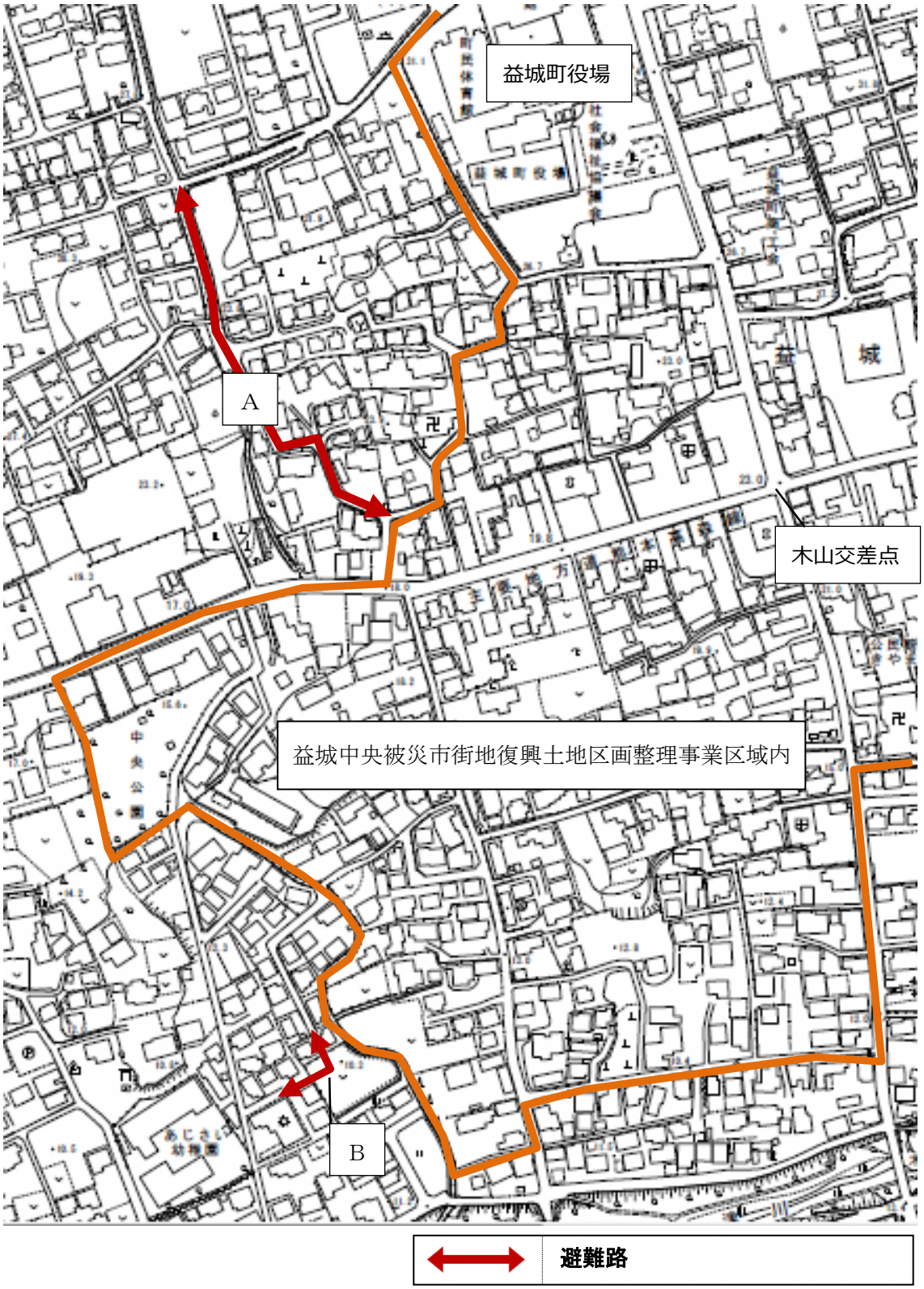

図　避難路計画図